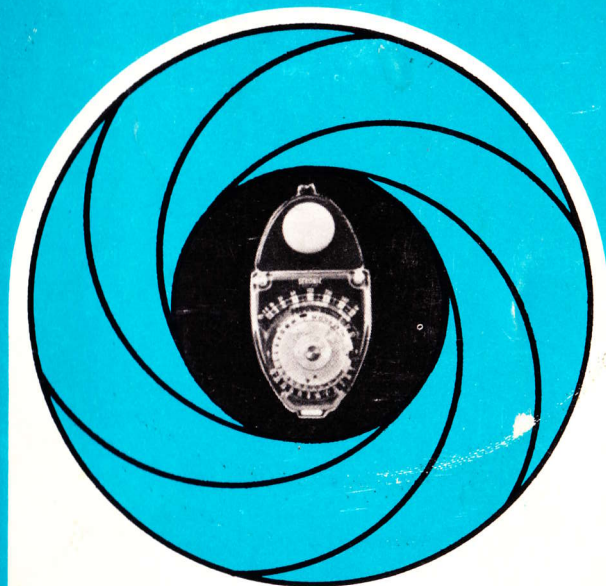


SEKONIC STUDIO "S"

● やさしい使い方 ●



セコニック



発売元
株式会社

コパル

営業企画部：東京都板橋区志村 2-16-20
TEL. (960) 8171

大阪営業所：大阪市東区本町 2-25<本町ビジネスビル階>
TEL. (251) 1621

名古屋営業所：名古屋市東区武平町 4-17
TEL. (962) 3981

福岡営業所：福岡市奈良屋町 1-20<奈良屋ビル1階>
TEL. (29) 3631



製造元
株式会社

セコニック

サービスステーション：東京都新宿区市ヶ谷田町 3-8<新祥ビル>
TEL. (269) 7241

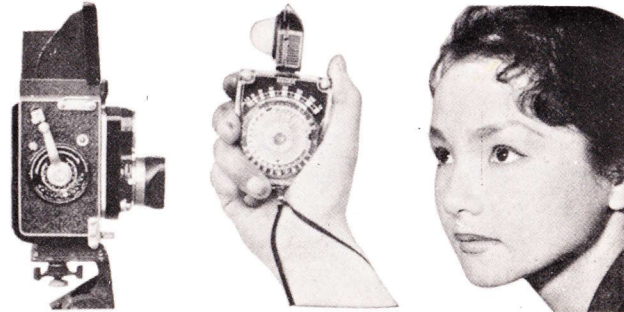
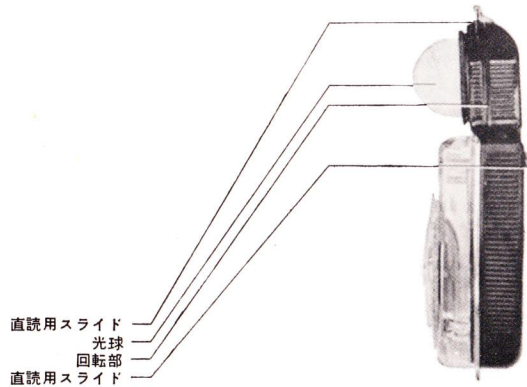
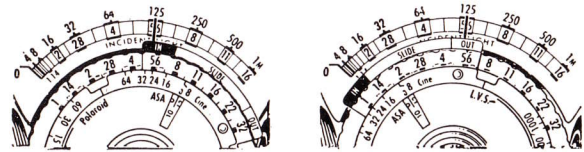
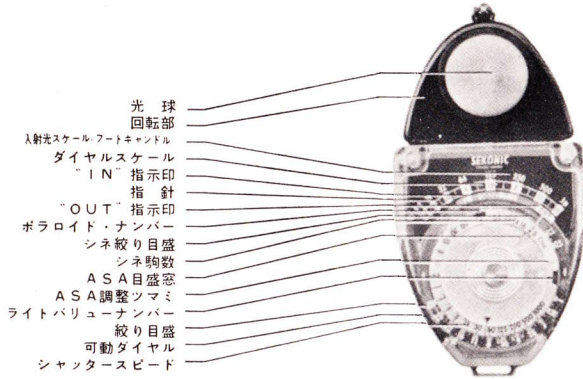
スタヂオメーターのやさしい使い方

目 次

各 部 説 明	2
露出決定の順序	3
直読ということ	4
附属品の使い方について	4
ス ラ イ ド	4
白 色 平 板	6
光 角 度 板	6
入射式と反射式の指示値について	7
照度について	7
シネ目盛について	8

露出決定の順序

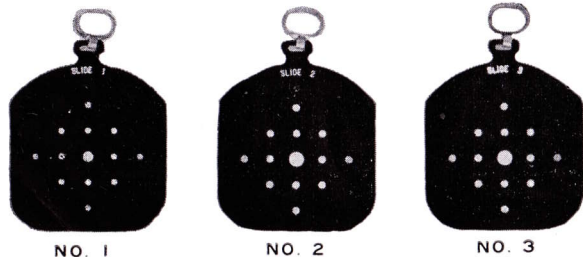
- ① ASAダイヤルを廻してフィルム感光度数値（ASA数値）を合わせて下さい。普通SSはASA100、SSSはASA200です。
- ② 光球を写真のようにカメラの方に向けます。
- ③ 指針が振れますから、スケール上の絞り値を読み、ダイヤルを廻してスライド（No. 1）を入れている時（高照度の場合）は“IN”外した時（低照度の場合）は“OUT”で、ダイヤル上の絞り値に合わせて下さい。ダイヤル下部に組合わされた絞り値とシャッタースピードの組合わせが適正露出です。



“直読”と云うこと

このスタチオメーターには直読用スライドが3枚入っております。前述のように露出の決定は一般にASAを合わせ、針の振れたところにダイヤルを合わせて露出を決定するものですが、この直読用スライドをお使いになればASAとか、ダイヤルを合わせなくても直ちに露出を決定出来ます。但し、このためには多少の制約があります。このことについてはスライドの項を御覧下さい。

付属品の使い方について 1. スライド



スライドは“NO. 1”、“NO. 2”及び“NO. 3”の3枚があります。

- スライド“NO. 1”は最も大切なもので次の二つの使い方がありません。

高低切換用……被写体の明るさによって、明るい時（指針が振れ過ぎる時）はスライドを入れ、暗い時（指針が振れない時）は外して下さい。（③参照）

直読用……スライドの裏に“BR 1 G H T : A S A 1 0— $\frac{1}{50}$ ”と書いてあります。これはASA10のフィルムを使って $\frac{1}{50}$ 又は $\frac{1}{60}$ で撮影するような場合には、このスライドNO. 1を入れて測れば指針の振れた値が絞り値になります。従ってこの場合にはASA数値を合わせたり、ダイヤルを廻わしたりする必要はなく、指針が振れた絞り値をカメラにセットすれば良いわけです。

このASA10： $\frac{1}{50}$ を使えば、ASA 100では $\frac{1}{500}$ 、ASA 50では $\frac{1}{250}$ で直読が出来るわけです。例えば、ASA100のフィルムを使う場合、スライドNO. 1を入れます。次にカメラのシャッタースピードを $\frac{1}{500}$ にセットします。メーターを被写体に向けて指針の振れた値が絞り値ですから、そのままカメラにセットすれば良いわけです。

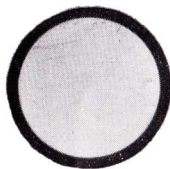
- スライド“NO. 2”及び“NO. 3”の二枚のスライドは上記スライド“NO. 1”の直読用を使用する時と同じように、直読用にだけ使用するスライドです。

スライド“NO. 2”はASA16・ $\frac{1}{50}$ 、32・ $\frac{1}{100}$ 、64・ $\frac{1}{200}$ と云うようにこのスライドを入れれば、ASA16で $\frac{1}{50}$ で撮る場合には指針の振れたところが絞り値です。

スライド“NO. 3”はASA80・ $\frac{1}{100}$ 、100・ $\frac{1}{125}$ 、200・ $\frac{1}{30}$ と云うような時、即ちこのような状態で撮影される場合にはこのスライドを入れればダイヤルを廻わす必要がなく非常に便利です。

以上のように三枚のスライドを直読用として使用される場合には、ASA目盛を合わしたり、ダイヤルを廻わす必要がありませんし、廻わして測れば適正露出は得られませんから御注意下さい。

従って、スライド“NO. 2”及び“NO. 3”を使用する時はダイヤルを廻わす必要がなく、スライド“NO. 1”を高低切換用を使用する時のみASA数値をセットし、指針の振れに従ってダイヤルを廻わすわけです。

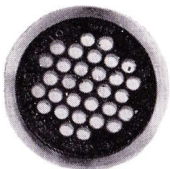


2. 白色平板

この白色平板は光源の光の強さを測定するためのものです。勿論光球でも測定出来ますが、光球の場合は側面からの光を拾ってしまいますから適当ではありません。これは被写体のライトバランス（ハイライトとシャドウの光の強さの比率）を測定する時に使用します。

例へば、スタジオ等で撮影する場合に主光源と補助光源との比を4:1以内にすれば一層美しい写真を撮ることが出来ます。室内とか屋外でレフを使用するような時にはこのライトバランスを測ってから撮影するよう心掛けて下さい。例へばハイライトで指針が8に振れ、ばシャドウが4になるよう光を調節します。

尚、露出は光球をつけて決定して下さい。



3. 光角度板

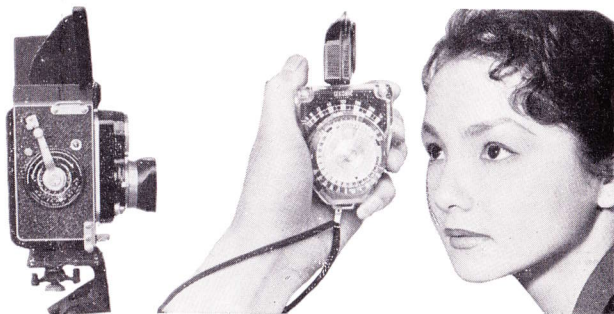
これはメーターを反射式に使用する時につけるものです。従って光角度板を使用して測定する場合には受光部を被写体の方に向けて下さい。但し

1. スライドは必ず外して下さい。
2. "IN" で合わせて下さい。（スライドが入っていないにもか、わらず……）

4. 入射式と反射式の指示値について

入射式は光源の強さを測り、反射式は被写体の反射光を測って露出を決定する方法です。従って同一光線下にある被写体を測定する場合、入射式では何を測定しても露出は一定ですが、反射式では被写体の反射率の相異によって露出は違って来ます。

例へば、同一光線下で白いものと黒いものを測った場合、入射式では



同じですが反射式では違って来ます。

但し、被写体は一般に反射率の違うものが入り混っておりますから、反射式では一つ一つ平均して露出を決定しなければならないのに対して、入射式は被写体の反射率の平均（18%）に合わせて光を18%しか透過しないようにしてありますから、一回の測定で平均された値が得られるわけです。このように撮影目的によって入射式と反射式を使い分けて下さい。

5. 照度について

このスタジオメーターは露出メーターと共に照度計としても御使用になれます。

照度計として御使用になる時には前述の白色平板をつけて光源の方に向けて下さい。スケール上にある白色の数字（4, 8, 16, 32, 64……）

はフートキャンドル（照度の単位）を表わしてあります。

1フートキャンドル=10.75ルクス

ですから出た値に10.75倍していたゞければルクスの値が出ます。
尚、スライドNo. 1を入れた場合にはこの値に30倍して下さい。スラ
イドNo. 2, 3はお使いにならないで下さい。

シネ目盛について

8ミリ撮影の時は露出決定は“露出決定の順序”で申し上げたと同様の
方法で、先ずASAを合わせ指針の振れたところに“IN”又は
“OUT”でダイヤルを合わせます。8ミリの場合には撮影コマ数に
対する絞り値が決定されます。普通8ミリは16コマが標準ですから、
16コマに対する絞り値(ダイヤル下部の赤数字)を読み取って下さい。